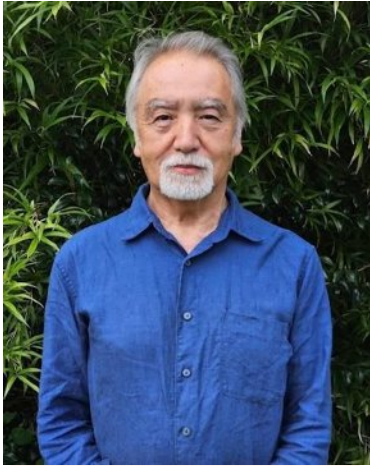


澤井 伸（さわい しん）氏



昭和25年3月10日生（74歳 八王子市在住）
織布工（多摩織）
伝統工芸士

※年齢は令和6年10月1日現在

経歴

昭和25年 東京都生まれ
昭和44年 大塚テキスタイルデザイン専門学校（現専門学校早稲田国際ビジネスカレッジ）卒業
昭和45年 有限会社澤井織物工場入社
平成 9年 経済産業大臣指定伝統的工芸品多摩織伝統工芸士（総合部門）
平成18年 有限会社澤井織物工場代表取締役社長
平成19年 東京都伝統工芸士
平成20年 東北芸術工科大学非常勤講師
平成27年 Google、Levi Strauss & Co.の「プロジェクト・ジャカード」に参画
平成28年 東京都優秀技能者（東京マイスター）知事賞
平成29年 八王子市ものづくり産業表彰
同 年 多摩伝統工芸士会会長
同 年 八王子市特別表彰
平成30年 卓越した技能者（現代の名工）の表彰
令和 3年 黄綬褒章
令和 5年 八王子織物工業組合副理事長
令和 6年 東京都伝統工芸品産業団体連絡協議会会長

顕彰事由

氏は、多摩織伝統工芸士として卓越した織布の技能を有している。
近年は外国企業の新製品開発に参画するなど、新たな織物の創作にも積極的に取り組んでいるほか、後進の指導・育成にも携わり地元織物産業の発展に尽力している。
氏が伝統工芸の普及と発展に貢献した功績は多大であり、今なお創作を続けるその姿は、多くの人々を魅了するとともに、広く都民が敬愛し、誇りとするところである。

候補者のコメント

この度は、東京都名誉都民に御推薦下さったことに対し、心より感謝申し上げます。
代々続いている家業の織物業を引き継いで参りましたが、昭和から平成に移り、着物の需要が減り始めた頃から新しいものに挑戦を始めました。
その頃、初めてニューヨークを訪れる機会があり、多種多様な人や物に触れ、それから様々なメーカーの人達とのもの作りが始まりました。
これからも気持ちを新たに、伝統的なものと新しいものにと取り組んでいきたいと思っております。

令和6年度 名誉都民候補者

仲代 達矢（なかだい たつや）氏（本名：仲代 元久（なかだい もとひさ）氏）



（撮影：加藤孝）

昭和7年12月13日生（91歳 世田谷区在住）

俳優
無名塾主宰

※年齢は令和6年10月1日現在

経歴

- 昭和 7年 東京府（現東京都）生まれ
- 昭和27年 俳優座演劇研究所付属俳優養成所入所
- 昭和30年 俳優座入団、舞台「幽霊」のオスワル役でデビュー
- 昭和34年 映画「人間の条件」に主演
- 昭和47年 NHK大河ドラマ「新・平家物語」に主演
- 昭和50年 妻・宮崎恭子とともに無名塾を設立
- 同 年 舞台「令嬢ジュリー」「どん底」で第17回毎日芸術賞、第26回芸術選奨文部大臣賞
- 昭和55年 舞台「ソルネス」で第35回文化庁芸術祭賞優秀賞
- 平成 4年 フランス文化省芸術文化勲章シュヴァリエ
- 平成 7年 能登演劇堂名誉館長
- 平成 8年 紫綬褒章
- 平成15年 勲四等旭日小綬章
- 平成17年 舞台「ドライビング・ミス・デイジー」で第60回記念文化庁芸術祭賞大賞
- 平成19年 文化功労者
- 平成27年 文化勲章

顕彰事由

氏は、長きにわたり舞台・映画・テレビドラマと多方面で活躍し、その数々の作品と幅広い演技力で、多くの人々を魅了してきた。

また、無名塾を主宰し後進の育成にも力を入れているほか、能登演劇堂での公演も精力的に行っている。

今なお第一線で活躍を続けるその姿は、人々に希望や活力を与え、広く都民が敬愛し、誇りとするところである。

候補者のコメント

19歳の時に俳優座の養成所に入ってから、70年あまりずっと俳優の仕事をして来ました。どうにかここまでやって来れたのは、演劇では千田是也先生、映画では小林正樹監督や黒澤明監督など、良い師匠に恵まれたからかと思います。それから何と言っても、演劇や映画が人の心を豊かにしてくれるものだったからでしょう。

人の心が豊かなら、きっと戦争は起こらないものと思います。

選んでいただいたことを機に、役者として、いっそう平和の尊さを語って行きたいと思います。

令和6年度 名誉都民候補者

両川 船遊（りょうかわ せんゆう）氏（本名：田中 克昌（たなか かつまさ）氏）



昭和18年10月16日生（80歳 三鷹市在住）
（公財）江戸糸あやつり人形結城座理事長
人形遣い、江戸写し絵師

※年齢は令和6年10月1日現在

経歴

- 昭和18年 東京都生まれ
- 昭和22年 江戸糸あやつり人形結城座「杜子春」で初舞台を踏む
- 同 年 日本舞踊を始める
- 昭和29年 武智鉄二主宰の歌舞伎教室に入門
- 昭和31年 糸あやつりが東京都無形文化財に指定
- 昭和47年 写し絵家元三代目両川船遊を襲名、写し絵師の活動も開始
- 昭和61年 第20回ベオグラード国際演劇祭で「マクベス」を上演、特別賞・自治体賞受賞
- 平成 5年 十二代目結城孫三郎を襲名、襲名披露公演として「本朝廿四孝」「リチャード三世」に出演
- 平成 8年 江戸の糸あやつり人形が国の「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選定
- 平成16年 江戸糸あやつり人形の入門塾を始める
- 平成19年 第61回アヴィニヨン演劇祭に正式招聘され「屏風」「綱館」「本朝廿四孝」を上演
- 平成28年 第23回シビウ国際演劇祭に正式招聘され日越国際共同制作「野鴨中毒」を上演
- 令和 3年 結城孫三郎の名跡を息子の結城数馬に譲り両川船遊のひとつ名前に戻る

顕彰事由

氏は、380年以上続く江戸糸あやつり人形劇団で、人形遣いとして古典公演や新作公演に取り組み、国内外の多くの人々を魅了してきた。

さらに写し絵師としても、新しい手法に次々と挑戦し、結城座独特の舞台空間の創造に貢献している。

氏の日本の伝統芸能の伝承と発展に寄与した功績は多大であり、今もなお活動を続けるその姿は、人々に希望や活力を与え、広く都民が敬愛し、誇りとするところである。

候補者のコメント

名誉都民を受け取ってもらえますかと、都の方から電話が入った時、新手の振り込め詐欺かな、とふと頭をよぎりました。

4歳の頃から人形の後ろにへばりつき、人形の影法師のような人生を送ってきた私になんでこんな名誉が…。

本当に私でいいのかなあ…。本当に私でいいのですか…。